

弓道なごの

第89号

発行：長野県弓道連盟
会長 松島貞治
〒399-1801
下伊那郡泰阜村4139
TEL0260(26)2628
編集：県弓連部
印刷：県成進社

巻頭言

健康で弓を引くために

長野県弓道連盟副会長 奥山 誠治



はじめに、一月一日に発生した能登半島地震により被災された多くの方々へ心よりお見舞い申し上げます。

この様な状況下私たちは弓を引けることに対して本当に有難く感謝の一言に尽きます。

一日も早く普通の生活に戻れることをお祈りいたします。

さて、松島会長の挨拶の中で長野県の弓道人口がピーク時の1600人程から現在400人減の1200人程度であるとのこと、少子高齢化により日本の現在人口も減りつつあり、二〇五〇年頃には一億人を割り、3300万人減の

9500万人余りになると予測されています。高齢者人口が約1200万人増加して生産年齢人口は約3500万人減少し、その結果高齢化率は約20%から約40%に上昇すると予測されています。最近の新聞に長野県民人口も200万人を割ると推計されるとの記事がありました。先ほど長野県の弓道人口が1200人程であると書きましたが、その割の内訳も高齢化が目立ちます。その割に若い高校生の弓道人口は現状を保ち増減は余り見られずに良い傾向であると思っております。できれば高校卒業後も続けて欲しいものです。卒業生の一割程の生徒が毎年続けていただけたならば全体の底上げになるのではないかと期待をします。

さて、中高年に向かい体力の衰えは

防ぎたいものです。審査会や講習会など立射で行射する姿を見かけますが、弓道は他のスポーツに比べて体力的トレーニングをするという事があまり見られていません。実際トレーニングを行っている人もいますが大抵の人は道場に来て軽く手足を動かして弓を引く人が多いのではないのでしょうか？

長く弓を引き続けるためにこの先簡単手近なことから工夫をして毎日のラジオ体操やスクワットなどやり始めてみませんか。少しずつの効果が始まったならば占めたものです。正に継続は力なりです。

又、各地で行われる弓道教室の参加者の中に中高年の方が多数おられます。弓道人口増加に向けて喜ばしいことで

す。講師の先生は、弓道の良い点を十分に教え、伝え、長く続けられますよう指導をして欲しいものです。そして中るところまでが本人の苦労をするところ

弓を引く人の目的、目標は人様々です。引いて中ることを楽しむ人、競技に力を入れる人、審査で段位称号を目指す人、皆弓道人です。共通するところは最低限の決まり事を守って行射をするということ。あ、弓を引いておられるのですか、道理でどこか違うと思いましたが「先輩の言葉です。第三者の人からこのように見られるようにしたいものです。歩々道場「弓の道は人です。」(まるとまりの無い文です。)



四段の頃



祝
昇段
七段

感謝と喜びと追憶

教士七段 大蔵 務



令和五年十一月、長野県弓道連盟、須高支部

の多くの先輩や弓友に支えられて七段の推薦をいただき拝受で

きました事は、皆様方の支援によるものと心から感謝申し上げます。今後共変わらぬご指導をお願いいたします。

私が弓を始めたきっかけは、四十年前の事でした。スキー指導員の研修会終了後の帰り、善光寺参詣をと思い立ち東側から境内に入りました。入るとすぐ右側の土手の向こうから鋭い音が聞こえてきました。何だろうと思ひ土手を登り眺めてみると灯りに照らされた初老の方が弓を引いていました。着物と袴、片袖を脱ぎ白い筒袖が目映え興味を湧かせてきました。静寂と緊張感の中、矢が飛び鋭く放たれた瞬間、大きく両手が開き、矢が的に突き刺さりました。しばし静止がありました。感動と溜息、時間が止まりました(後日ご

指導をいただく山内範士でありました)。

帰宅後、善光寺で東の間に見た弓の強烈な驚きと感動を妻に語りながら、あの姿が蘇ってきました。ぜひ弓道がしたいと熱弁を振るう、許可に成功、善光寺で見た弓に大変なカルチャーショックを受けたのでした。

それから数ヶ月が過ぎたある日、突然妻から弓道なら知人がいるので紹介していただけてますよと言われる、弓もできるぞと思ひきや、スキーを辞めるならばと、条件付きでした。少し困り、考えました。

スキーは体力勝負であるので、四十過ぎれば無理はできないし危険であると判断、弓への方向転換が早かったです。

早速休日、妻と娘と三人で弓道場のある隣町の寺に伺いました。道場は寺の境内にある鐘楼堂の下に作られたこぢんまりとした佇まいでした。

会長(寺の住職)さんからあらましの説明を拝聴しました。弓道具の貸出はないので自分で用意する事、その上で用具の取り扱いには充分安全

に配慮し、戸締まり、火気、整理整頓と入場退場に気を配り、その上で使用は、自由でよいと許可を頂きました。

早速弓道具一式を購入して昭和五十四年十月十日「体育の日」を記念して入会をしました。式段の先生から三ヶ月、巻藁の稽古が続きました。が、楽しかったです。

二年後、佐久へ転勤し、日暮先生と良き弓友に出逢いました。三年で長野へ転勤、山内先生と初めて会い指導を受けましたが、間もなく木曾へ帰り、またしても長野へ転勤とな

り山内先生と再会、うれしかったです。平成六年頃より須坂弓道会のお世話となり良き弓友がいて助かりました。

その後、良縁に恵まれて宮澤範士、古澤範士、本多範士と高段の先生方のご指導をいただき幸運でした。

弓道を始めて四十数年、人生の半分以上を弓に携わってきましたが幸せな事でした。これからもう少し精進(心)しようかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

感謝



退任役員挨拶



ジュニア部担当
前副会長
清水 史明

退任のごあいさつ

副会長(ジュニア部担当)として2年間お世話になりました。このたび、高校教員としての役職定年を迎えるにあたり、副会長を退任することとなりました。私は高校の弓道部顧問や高等学校体育連盟弓道専門部の専門委員として高校弓道に関わらせていただきましたが、長野県弓道連盟の事業にはほぼ関わらずにきていたため、副会長を仰せつかりましたがその任にふさわしい活動もできずに来たことを大変申し訳なく思っております。

連盟の会議等に参加させていただきましたが、松島会長をはじめ役員の皆様の献身的な協力で連盟の運営がなされ、全国で活躍する弓士を輩出したり、すそ野の拡大に努められ

るなど、その活動は全国でも誇れるものと感じました。また、ジュニア部では今年度の高校総体では男女ともに団体で決勝トーナメントに進出するなどの活躍がありました。長野県の高校弓道部の活動も全国で屈指のものだと思います。

さて、今、高校の部活動は大きな転換点にきています。大きな問題が三つあります。第一に少子化による部員の減少です。今年度の中学卒業生数は生徒急増期だった平成3年度に比べて約半数になっています。そのなかで弓道部は部員の減少が他の部と比べても少ない状態が続いていますが、今後減少するのは必至と思われまます。団体がチームが組めなかつたり、部そのものが維持できなかつたりする可能性は小さくないと思えます。第二に休日等の部活動指導の問題です。「働き方改革」が叫ばれるようになり、教員の残業時間が問題視されるようになりました。私が教員になったころは、若手の教員は指導できる部活動の顧問となり、生徒の成長のため、また学校の活性化のため

めに部活動指導を当たり前に行っていたのですが、教員の働く環境のうち部活動指導に対するブラックな印象が強くなってきたこともあり、放課後や休日の指導や引率することを嫌い運動部の顧問を避ける先生方が増えていきます。第三に弓道を指導できる顧問の先生の不足です。高校教員も高齢化が進み、50代後半以上の先生方が最も多くいる構造です。若手の先生方の顧問が絶対的に不足しています。

これらの問題は弓道に限らずすべての高校や競技団体が直面している問題でもあります。公認スポーツ指導者の制度などを活用して、少子化などに対応した弓道の発展を検討していかなければならないと思います。今後の長野県弓道連盟の発展を願うとともに皆様のご厚情を賜りましたことに心より感謝申し上げます。退任の挨拶といたします。



弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)
- 12人立2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

帝産ロッヂ

〒384-1305
長野県南佐久郡南牧村野辺山1003
HP: <http://www.teisanlodge.com/>
ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

令和六年度スタート！各事業部より



会長 松島 貞治

令和六年度のスタートにあたって

二月二十五日の評議員会で新年度の事業計画、予算等も決まり新年度もスタートできました。まず、私ですが、昨年十二月に突然の脳梗塞で倒れ、二月十三日からリハビリ専門病院へ転院し回復に努めております。復帰は五月下旬を目途にしておりますが六月にずれ込むものと思えます。この間、副会長はじめ役員にすべてお任せしております。皆様にお詫び申しあげます。令和六年度も事業計画に沿い進めていきます。会員各位のご参加、ご協力をお願いいたします。

さて、全弓連の会長も代わり、部会から委員会へと変わりました。基本計画部に代わり、指導委員会が弓に関することを決めていくこととなります。岡崎範士が基本計画部会長からそのま

ま指導委員長になりました。弓道誌の一月、二月号で岡崎指導委員長の発言趣旨をお読みになった方は、色々感じていると思いますが、その指導委員長の方針といえますか、考え方を見る限り、しばらくの間、弓道界も騒がしいことになりそうです。そういえば、長野県の大先輩故浜範士が指導委員長の時に、統一見解集(のちに副読本)を出されましたが細かいことは決めない方がいいと言われました。しかし、ここまで進んできますと、ある程度のことの統一されていきます。いまここで、体配に關し、合わせることに追い越し禁止という縛りをなくします。とか射位で左膝を手のひら一枚生かす、というのを手のひら一枚とはいいたしません。また副読本を守らないからといって審査で不合格にすることのないようにします。など一例ですがこのようなことを言われています。ただ、一月号で弓道体験教室では「まずは楽しく引かせなさい」これには共感しました。ともかく弓士の皆さんそれぞれの目標に向かってがんばってください。



総務部長 中山 光康

令和五年度は、新型コロナウイルス感染症は昨年五月に5類感染症に移行したこともあり、県弓道連盟の行事も中止をすることなく行うことができました。県の祝射会も久々に開催することができ、祝射会の折や懇親会で久々に歓談することができました。昨年度は、武道館主催となる研修会を九月に飯田で初めて開催することができました。中央の講師の先生の指導を受けるといことは貴重な経験であったと思います。

さて、本年度も行事予定表に沿って行事を進めていきたいと考えています。しかし、新型コロナウイルス感染症は相変わらず多く、またインフルエンザをはじめとする感染症も多い状況です。個々に対策をお願いすると共に、体調の悪い時は参加しないという対応をお願いいたします。

日本スポーツ協会では「NOスポハラ」ということで啓蒙活動がされています。スポハラとは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など、安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為のことです。お

互いに気持ちよく弓が引けるように気を付けた行動をお願いします。また、アンチドーピングについて知識をもって意識していくことが必要となってきました。日本スポーツ協会のHPでも確認できますので一度目を通してください。

最後に昨年、国民スポーツ大会が令和十年に長野県で開催されることが内定となりました。弓道競技は飯田市で開催されます。開催に向けての準備品などの調査が昨年から始まってきています。大会を運営する飯田市と意思疎通を図りながら、参加選手にとって良い大会開催できるように準備をしていきたいと考えています。



指導部長 新津 一夫

令和六年度にむけて

令和五年度は、県連会長・県連副会長・役員・各支部長の方々に世話になり、また皆様方には指導部の活動にご協力いただきまして誠にありがとうございました。地方委員資格更新・弓道コーチ1取得免除申請等も全弓連への報告が

終わりました。

さてコロナも収束とはいきませんが、講習会・競技会・審査会等は通常に戻りつつあるように思います。特に強化部の活動に成果があり県連として喜ばしい結果でした。指導部としては、昨年初めて武道館にお願いして全弓連より講師を派遣していただき、二日間の日程で講習会を開催する事ができました。中央の講師による講習に刺激を受けて今後の稽古に活かしていただければと思います。

講習会は計画全てを実施し、344名の受講がありました。その他に副会長主催の四段以下講習会も222名と沢山の参加を頂き、全体では566名の多くの受講者となり有難く思います。それから各支部・弓道会で初心者弓道教室を開催いただき、たくさんの参加と入会者がありました。県弓連の底辺拡大にも尽力いただきましたありがとうございます。

六年度も武道館・上級者(公認資格認定講習会・公認スポーツ指導者専門科目免除講習会)中級者講習会等を計画いたします。また昨年実施の副会長主催の四段以下講習会も実施されます。目的にあった講習会を受講して各自の目標又は自己研鑽に役立てていただき、昇段・昇格に繋げていただきたいと思います。各地区の指導部員にご協力いただけただことに改めて感謝申し上げます。

令和六年度もよろしくお願いいたします。



競技部長
内山 喜照

パンデミック対応から 学んだこと

令和五年度は三年ぶりに計画した五つの競技会を全て無事に実施することができました。参加いただいた会員各位、運営に協力いただいた支部、地域の皆さまに改めて感謝いたします。五月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類になったことを受け、それ以降の大会の開催制限を撤廃しました。大会参加人数もコロナ以前の8割程度まで戻ってきています。しかしながら重症化のリスクは低くなったものの依然感染力の強い伝染病であり、引き続き気を付けながらの運営を心掛けたいと思います。

振り返ってみますと令和二年度から三年度四年度と、パンデミック下での競技会運営を経験しました。前例がないこと、また流行状況によって頻繁に対応策が変わることで、翻弄されながら

私と弓道

小支部 参段 黒岩 有人

私が弓道をはじめたのは高校の班活動で、きっかけは一緒に通学していた友達が始めると言ったので、じゃあ自分もという軽い気持ちで始めました。

始めた当初は胴造りやエアール節ばかりで実際に矢を飛ばすことなく、早的の中にいたいと思う日々でした。

夏頃になってやつと的に前に立てるようにになり念願の的前練習を始めましたがなかなか的中しなかつたにすら届かない状態で、もっと上手くなるうと決意しそこから本格的に弓道のめり込んでいき、夜遅くまで居残り練習していました。

いつからか一緒に居残り練習していた先輩に射がそっくりになったらしく、周りからよく言われるようになりました。毎日のように見ていると無意識に似ていくものなのだなと思ひ、憧れていた先輩だったので結果オーライかなと。

少しずつ的中率も上がり、大会等で結果が出せるようになってきた頃にやってきたのが「もたれ」でした。巻き藁や的を掛けずに引くと離れるのに、的に前に立つと離れが出せなく

なり会が10〜20秒たつて戻すという状態でした。周囲にはもたれになつた人はいなく、ひたすら巻き藁、的前を往復して射の差異を無くそうと試行錯誤し、なんとか春の最後の大会に間に合わせました。

就職してすぐに上田市弓道協会に入会していきなりぶつかつたのが、仕事しながらの弓道を続ける難しさです。私自身、交代勤務等の不規則な仕事をしているため、なかなか時間を作る事ができなく、年数回程度しか稽古できない事もしばしばあり、会う人会う人に「お、珍しい」とも言われました。

ここ二年は少しずつ時間を作り復帰してきたので毎年毎年「今年は頑張る」と言っていたのを現在継続中です。

今までの遅れを取り戻してゆくので、先生方、共に引く仲間達これからもよろしく申し上げます。



ら実施/中止を繰り返しました。一番に感じたことは、弓士が同じ会場に集まって弓を引けること、またそれを見られることのありがたさでした。これまで当たり前でできていたことができない、やったとしてもお互いにおびえながら恐る恐る実施するなど、このあたりがたさは経験して初めて認識することとなりました。オンライン開催も実施したりしましたが、やはり緊張感や臨場感と同じ会場に集まって醸し出されるものと感じました。

一方で、このような経験から臨機応変に工夫をして大会を行うことで学びもありました。一つは時間帯別の集合理別開催です。感染症対策でやむを得ず採用しましたが、控室の混雑の緩和、拘束時間が短くなることで参加しやすくなる、役員と選手の兼任など、メリットも見つかりました。中央審査会もこのような時間別集合を続けるようであり、令和六年度は六月の近代的選手権での種別時間別開催を予定しています。本年度も多くの会員の皆様に参加していただける競技会を目指していきま



令和五年度の審査実績と 令和六年度の審査事業について



審査部長
篠澤 英次

コロナ禍の審査会では、幾通りもの開催方式を経験し続け、その変則的な審査会は回数を重ねる度に改善を重ねながら、ある一定の方式を確立することができました。令和五年度の審査会は、この方式を踏襲しながらも状況に応じ柔軟に審査会を開催する事ができました。これも関係各位のご理解によるものであり、心より感謝し御礼を申し上げます。

始めに、令和五年度の県内審査会についてご報告いたします。審査会は全十三回実施し、受審者数は、のべ2396名であり、この五年間の中で最も多い受審者数でした。内訳をみますと、式段以下高校生(中学生含む)受審者数は、昨年より107名多い1695名。また、参段から五段までの県内会員受審者数も、昨年より101名多い373名の受審者数でした。これら要因として考えられるのは、感染症5類への移行に伴う行動制限の緩和もありますが、弓道アニメによる会員(部員)の増加も要因の一つであると考えられます。

続いて、令和六年度の審査事業につきましてご案内いたします。本年度は、地方審査会を十一回、連合審査会を一回と全十二回の審査会を計画しております。

審査方式につきましては、全弓連からの方針も考慮しながら、本年度も参集方式の審査会を予定しております。また、学科審査につきましても、レポート式を継続し、審査申込書と同時の提出とします。次に、昨年度からの変更点をご説明いたします。

○県内審査会の併願について

昨年度まで、県内審査会における併願受審の際は、審査申込書にその旨の記載をお願いしておりましたが、その記載を不要といたします。

○審査の詳細について

全弓連と同様の「令和六年度長野県四段以下の審査会受審にあたって」を新たに設けました。審査会の注意事項等にも確認するようにしてください。

○当日の合格発表について

昨年秋期審査会に実施いたしました、当日の合格発表は、公平性の観点より本年度は行わないことに決まりました。

以上が変更点となります。

先にも述べたように、ここ数年、審査会の方式は次々に変化いたしました。受

審の際は、その時々状況により内容が変更する場合もありますので、最新の情報を県弓連ホームページなどでご確認ください。

最後になりますが、本年度も受審者の皆様が安全かつ集中して受審できるよう、審査部員も精一杯努めてまいります。各支部長、及び担当支部の皆様には多大なご苦勞をお掛けいたしますが、昨年同様にご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



強化部長
永藤 聡

令和六年度をむかえて

本年より「国民体育大会」という名称は「国民スポーツ大会」と変更になります。すでに冬の国スポから運用されていますが、まだまだ慣れませんし、略称の「国スポ」には違和感さえ覚えるのは私だけでしょうか。ともかく本年佐賀県で開催される、第78回国民スポーツ大会「SAGA2024」に向け強化は始まっています。

さて以前からの懸案であった、国体(国スポ)選手の選考方法の公平性・透

明性ですが、本年より「長野県弓道連盟国民スポーツ大会選手選考基準」を設け対応いたしました。ちよつと、大げさな名称ですが、ちよつと国スポと名称変更の年より運用の運びとなりました。ここ何年間かの試行では問題なく良い選考ができたと思っておりますが、皆様の意見を聴きこの基準の向上をさらに図っていききたいと考えております。

実際、ここまで踏み込んだ選考基準は全国でもおそらく初めてだと思われま

す。調べられる限りの他県の選考基準・選考方法を拝見しましたが、「的中率を参考に」とか「ブロック大会、本国内での上位入賞の可能性」など、どうやって決めるのか不鮮明なものが多く、「練習会の参加率」や「国体選手としての品位をそこなわない者」等の選考基準もありました。ただし昨年までは長野県も「的中のみでなく射形・射技などを総合的に判断して決定する」としており、まあ不透明な感じは否めませんね。ただ、選考基準を公表している県は少なく、ほとんどの県はホームページや国体選考の案内を見ても分かりませんでした。どうやって決めているのでしょうか。その昔には、県連会長が指名した県もあったようですが、さすがに今は無いとは思いますが。選考基準は設けましたので、これからは各自の獲得点数により選手決定することになります。その点数は個人的

にはお教えできるとは思いますが、その全部を公表することは個人情報面からちよつと難しいかなと思います。いろいろあり面倒ですが、これはこれで、仕方のないことですね。

とにかくこの選考基準は、本番の国スポで実力を発揮して活躍できる選手を選ぶためのものです。あれ、どこかの県の選考基準のようなことを言ってますね。まあ求めるものは一緒でも、主観的でなく客観的な選考基準ですので安心して下さい。

さいごに、本年の佐賀国スポで、この選考基準で選ばれた選手が大いに活躍してくることを願っております。



ジュニア部長
高砂 健司

高校弓道を取り巻く環境について

一般の弓士からすると、ジュニア部とはなんぞやと思うかもしれません。ジュニア部の活動対象は中学生と高校生です。とは言え、中学校で弓道部のある学校はほとんどありませんから、中学生大会には数少ない弓道部がある中学校の

選手と地域のスポーツ少年団などで弓を引いている選手が出場することになります。それに対して、高校では弓道は割と盛んでほとんどの学校に弓道部があり、部員数も全県で二千人以上の人数になります。昨年だったでしょうか、県内の某テレビ局が「県内高校で弓道が盛んな理由」を特集していました。その中で「熱心な教員がいた」というのが理由の一つに上がっていました。確かに、自分でも弓を引く顧問の先生が多かったように思います。そのような先生方のお陰で、今の弓道人気があるのでしょうか。

しかしこの一、二年を見ますと、多くのベテランの先生が引退され顧問の入れ替えが激しく弓道の指導ができる顧問が少なくなっています。また、指導できる顧問とそうでない顧問の格差がそのままクラブ員の技術の差になっているのも現状です。今はまだ高体連の登録でも弓道人口は横ばいですが、生徒の急減期を迎え部員の減少は避けられないでしょう。それはひいては将来の一般会員の減少にも繋がります。これらの問題を打開するにはどうしたらよいでしょうか。

一番良いのはクラブの充実です。ジュニア部では活動計画に「顧問間の交流」を挙げました。指導できる顧問は新たに弓道部の顧問になられた先生たちに声を掛けてください。逆に指導に

悩んでいる先生は近くの指導できる顧問に声を掛けてください。各地区に専門委員の先生がおられますので、ぜひ相談していただき合同練習でも練習試合でもしてください。そうして皆で弓道界を盛り上げていきましょう。



広報部長
中田 美千

令和六年に向けて

令和六年度も、広報紙「弓道なごの」は、年間四回の発行を計画しております。

その時代を記録する、という使命を念頭におき、より親しみやすく、身近で、読みやすい紙面を心掛けて編集してまいりますと存じます。

さて、「弓道なごの」ですが、今現在ホームページには電子版も掲載し、紙版と並行してお届けをしております。

紙媒体ですが、経費の件、時代の変化等を鑑み、皆様のニーズなども考慮いたしました。再発年度、令和七年度に向けて、発行部数、送付先等見直したいと思っております。各所の皆様、特に支部長の皆様には、送付先、送付数などご相談をしながら進めてまいりたいと存じ

ますので、どうかご協力をお願いいたします。

ホームページにしましては、これまで通り二人体制で、より多くの情報の提供を心掛け、会員の皆様の欲しい情報ができるだけ早く掲載できるようにしてまいります。

広報部公式アドレスも定着してまいりまして、掲載のご依頼等、迷われることも無くなったかと思えます。今後も、担当者との情報共有、ニアミス防止に努めてまいります。

新型コロナウイルスの特別枠を設け、各機関からの情報、コロナ対応になっている大会、審査会等別枠で掲載してまいりましたが、5類に移行後、特別枠はほぼ審査情報になってまいりましたので、特別枠を令和六年から「審査情報」枠といたしました。

また、審査部からのご要望により審査情報を一覧表にいたしました。地方審査連合審査、中央審査等、欲しい情報がより取り出しやすくなったかと存じます。情報掲載の迅速さをと心掛けてはおりますが、担当者もこれを生業としていく訳ではなく、仕事をしながら、ということですので、「なるべく早く…」ということでご理解いただけますと、幸いです。広報紙、HPともにより充実させてまいりたいと存じますので、どうぞご協力をお願いいたします。

弓仲間紹介

高森町弓道部 福島 文雄

我が高森町弓道場は、町役場、公民館、体育館が集まる丘陵地にあります。現在弓道部員は18名で半数以上が女性です。

三年前のコロナ禍のさなかに一人の外国人女性Aさんが入部してきました。転勤で我が町に居住し弓道式段とのことでした。その時、飯田弓道教室を卒業した女性Bさんが入部しました。翌年の春の連合審査に挑戦するよう勧めるとAさんが「私も審査を受けるのでいっしょに行きましょう」とBさんを誘い「私もやりたいです」との声で二人の練習が始まりました。結果はAさんが参段にBさんが初段に共に合格しました。そして半年後、秋の審査会に二人が更に挑戦することとで、しだいに熱が入り、他の弓士に応援を頼むやら、飯田県営弓道場で集中して練習を行うやら。その結果またもや二人が共に昇段し四段と式



段に。そして今さらなる上を目指して挑戦中です！

弓道は一人でやるものではなく仲間と一緒にやるもの。中てるのが目標ですが仕事や生活や忙しい毎日の中で弓を続けることが大切です。それをこの二人の二年間が教えてくれました。

それでは、アメリカ、カリフォルニア出身Aさんのコメントを紹介します。

『私が日本に来た十年前から弓道の道のが始まりました。きっかけは最初の地、秋田で友人に誘われ弓を試しました。そして私のことを弓に誘いました。その後、引越して三つの県でそれぞれの部に入部しました。各道場にはそれぞれの慣習と伝統と雰囲気がありますが、不変的な部分で繋がっています。それは親切と温かい弓道コミュニティです。どこへ行ってもあなたを応援してくれる弓士のみなさんが待っています。皆さんで協力して弓道の腕を磨いていきましょう！』

大会結果

第32回中野冬季百射会(50射会)

令和6年1月28日(日) 中野市弓道場

参加人数…一般55名

一般個人の部(50射)

- 1位 藤澤 英輝(上小) 44中
- 2位 中島 冬萌(長野) 41中
- 3位 小田切祐典(須高) 40中
- 4位 林 貴徳(木曾) 37中
- 5位 藤澤 敏恵(長野) 36中

■多中賞(28中以上)

- 1位 笠井 信雄(長野)
- 2位 清水菜々美(中高)
- 3位 渡辺 晃(安曇)
- 4位 星野 拓翔(佐久)
- 5位 村田 聡(長野)
- 6位 猪原 誠二(中高)
- 7位 林 義徳(木曾)
- 8位 藤澤 千章(中高)
- 9位 中島 章子(長野)
- 10位 生田 憲克(長野)

令和6年第78回国民スポーツ大会 SAGA2024 長野県少年男女一次選考会

令和6年1月27日(土) 長野運動公園弓道場

令和6年1月28日(日) 上田城跡公園弓道場

令和6年2月3日(土) 駒ヶ根市弓道場

令和6年2月4日(日) 松本市弓道場

参加人数…男子218名中39名通過、女子274名中44名通過

▲北信地区 男子通過選手12名

- 舍川 立空(長野日大) 丸山 志文(長野日大)
- 小井主寿春(長野日大) 小林 夢良(長野日大)
- 関口 大輝(長野日大) 前川 悠太(長野日大)
- 羽生田真広(長野日大) 下田 真翔(長野商業)
- 湯本 拓海(中野立志館) 栗林 航平(文化学園)
- 金子 慶大(文化学園) 高井 淳平(文化学園)
- ▲北信地区 女子通過選手15名
- 牛山 愛菜(長野日大) 北村ひなた(長野日大)

- 小林 海月(長野日大) 田中 萌花(長野日大)
- 夷 菜々美(長野日大) 西澤 来春(長野日大)
- 北條 花音(長野日大) 松澤 萌愛(長野日大)
- 塚田郁央里(長野日大) 宮尾優亜良(長野日大)
- 山本里々杏(長野日大) 宮川 静妃(篠ノ井)
- 中山 結希(長野) 黒岩美利亜(長野商業)
- 細井 美愛(文化学園)
- ▲東信地区 男子通過選手 9名
 - 千葉 聖也(岩村田) 高井 優太(岩村田)
 - 藤井 溪伍(上田染谷丘) 志田 透和(上田染谷丘)
 - 森 崇遙(上田染谷丘) 中山 柊哉(上田染谷丘)
 - 大塚 倅成(小諸商業) 富岡怜太郎(小諸商業)
 - 小平 巴琉(小諸商業)
- ▲東信地区 女子通過選手 6名
 - 柳澤 理子(佐久長聖) 亀井 寧(上田染谷丘)
 - 谷津 琉那(岩村田) 小野寺 舞(岩村田)
 - 尾沼 優菜(小諸商業) 伊藤 樹里(小諸商業)
- ▲南信地区 男子通過選手 10名
 - 飯島 翔生(高遠) 小田 切梁(高遠)
 - 登内 琉真(高遠) 大場 詩月(赤穂)
 - 宮下 遼也(赤穂) 中兼 蒼哩(諏訪二葉)
 - 手塚 新太(飯田OIDE長姫) 兼 蒼哩(諏訪二葉)
 - 小林波亜斗(箕輪進修) 牧内くりむ(下伊那農業)
 - 宮坂 泰成(下諏訪向陽)
- ▲南信地区 女子通過選手 12名
 - 清水 絢音(高遠) 赤羽音慧月(高遠)
 - 瀧浪 翼(飯田女子) 熊谷かなで(飯田女子)
 - 北原 和子(飯田女子) 小池くらら(岡谷南)
 - 北原 花音(赤穂) 村田枝美佳(赤穂)
 - 登内 空未(伊那西) 本部 遥香(伊那西)
 - 佐藤のどか(諏訪二葉) 浦野 友衣(伊那弥生丘)
- ▲中信地区 男子通過選手 8名
 - 柳原 大輝(松本蟻ヶ崎) 福海鼓太郎(木曾青峰)
 - 長瀬 賢太(木曾青峰) 青柳 采杜(松商学園)
 - 酒井 大貴(池田工業) 小林 令於(池田工業)
 - 渡辺 浩太(塩尻志学館) 長嶺 芯(塩尻志学館)
- ▲中信地区 女子通過選手 11名
 - 宮原 薫子(松本県ヶ丘) 横澤 咲蘭(松本県ヶ丘)
 - 瀧 怜俐(松本深志) 黒岩 咲希(豊科)
 - 小山紗於里(木曾青峰) 原田 蒼伊(木曾青峰)
 - 林 萌乃果(松本蟻ヶ崎) 降旗 咲(松本蟻ヶ崎)
 - 峯村 侑花(塩尻志学館) 中村 彩泉(大町岳陽)
 - 藤原奈菜花(松本美須ヶ丘)

第5回 青壮年弓道大会

○令和6年2月11日(日) 飯田運動公園弓道場
参加人数・34チーム(高校64名、一般32名)
団体の部

- 1位 初志貫徹(宮崎見瑠、岩村綾、岩村拓生) 116点
- 2位 初心者(松村和重、中村忠信、後藤誠) 110点
- 3位 OIDE長姫C(手塚新太、田中聖人、森脇遼介) 97点
- 4位 豊丘道場(松枝敏広、平澤玲子、井原寿恵) 84点
- 5位 長姫OB(宮下悦輝、井原日寿、菅沼はる香) 84点
- 6位 風越B(小畑真央、今村くるみ、青山ゆきの) 78点
- 7位 風越DX(福島和奏、北原夏妃、鶴飼翼) 75点
- 8位 与一御前(松村弥、平澤萌、今村英樹) 72点
- 9位 下伊那農業B(林楓人、西野仰晟、原大智) 69点
- 10位 阿智D(林郁未、今村天音、福澤崇偉) 66点
- 11位 令和真誠(原光晴、近藤寿二、原一則) 66点
- 12位 太陽(熊谷すみか、山本優、久保田晃弘) 66点
- 13位 飯田高校(吉沢航希、加藤美空、石橋由希菜) 62点
- 14位 OIDE長姫B(倉本玲央、今牧勇雅、實原悠斗) 61点
- 15位 OIDE長姫F(田口唯花、伊藤ひまり、近藤陽菜) 61点
- 16位 OIDE長姫D(寺澤樹、熊谷悠人、長谷川蓮) 58点
- 17位 TT(高橋一仁、板倉美和、塩澤一成) 56点
- 18位 下伊那農業A(肥後英志郎、佐々木秀吾、牧内くりむ) 53点
- 19位 りんどう(大西春慶、平澤絵里子) 52点
- 20位 ギリギリゲンカイ(伊藤千昭、北原澄子、常盤浩) 48点

昇段昇格者

- ▲「東京」特別臨時中央審査会
 - ▽錬士の部
 - 長岡 昌(五段 上小支部)
 - 内山 寿美(五段 諏訪支部)
- ▲「名古屋」定期中央審査会
 - ▽六段の部
 - 岩村 拓生(錬士五段 飯伊支部)
 - 保科 良介(錬士五段 上小支部)
 - ▽七段の部
 - 平澤 敏弘(教士六段 飯伊支部)
 - ▽教士の部
 - 松島 一夫(錬士六段 飯伊支部)
- ▲「東海地区」錬士臨時中央審査会
 - ▽錬士の部
 - 柳澤 慎一(五段 小諸支部)
 - 酒井 紳一(五段 上伊那支部)
 - 塚田 滉巳(五段 上小支部)

訃報(敬称略)

長野県弓道連盟 飯伊支部
式段 熊谷 正敏(68歳)
令和6年1月10日ご逝去されました
長野県弓道連盟 上小支部
教士六段 滝澤 寿雄(82歳)
令和6年2月6日ご逝去されました
ここに謹んで哀悼の意を表し、
お知らせ申し上げます。

つづい

二年前に地元の高校を卒業した弓道部の子が昨年夏にふらつと弓道場へ遊びに来ました。その流れで後日、数人での飲み会が開かれ懐かしい面々が揃いました。弓道を通じてしか出会えない、年齢も職業もバラバラのメンバーでした。高校から弓道を通じていたり、社会人になってから弓道に出会ったり、高校での弓道生活を終えて社会人として生活してたり。
十五年ほど前に弓道教室に参加しなければ出会わなかった人たちがたくさんいるんだなあと実感しました。
大会や講習会などで知り合い、仲良くさせていたたいっている年上の方も多く、大会でお会いすることも楽しみですし、大会の手伝いや月例会を通じて知り合った高校生も多く、連絡をすればご飯へ行きましようとなることも嬉しく思うこの頃です。
仕事が忙しくなってしまう弓をひけないことが多くなってしまいました。細々と続けていければいいなと思っています。

塩尻支部 榛葉良美